

「NPO 法人ほしはら山のがっこう」が開催された、「20周年を祝う会」に参加しました。



11月3日（金・祝）に、「ほしはら山のがっこう」の活動拠点である旧上田小学校（三次市上田町）において、「20周年を祝う会」が開催されました。

当日は、これまで活動に参加してきたご家族や地域の皆さま、活動を支援してきた行政や団体など約90名が体育館に集いお祝いしました。

「ほしはら山のがっこう」の活動のきっかけは、2003年に129年もの歴史のある三次市立上田小学校が閉校したことによるもので、過疎化が進む中、更地にするか学校を活用し何かできないか地域住民の皆さまが検討した結果、木造校を一部改装し、豊かなふるさとに包まれた交流宿泊施設が誕生したそうです。検討開始時は、「こんなに何もなくて、どんなことができるのか」と、ないもの探しが始まったそう。議論を交わすうちに、「都会には大きな川はあるけれど、小さな川はない。川の赤ちゃんがあるじゃない」「そこに生きている生き物もいる！」など、次第に「あるもの探しへ」とみんなの意識が変わっていき、地域を盛り上げる資源



が多くあることに気づいたそうです。それからすぐに、年間を通しての「ふるさと自然体験塾」や民泊等が開始され、都市部の子ども達が自然豊かな場所で様々な体験や交流が行われ

るようになりました。

これまで20年間の活動の様子がわかる写真の数々は、どの写真も、子どもから大人まで満面の笑みや興味津々の眼差しにあふれた表情が印象的で、会場入り口で出迎えてくれました。

記念式典での来賓の挨拶に続いて、上田町内会長の金末忠則さんやふるさと自然体験塾塾長浦田愛さんから活動報告がありました。

「ふるさと」とは、生まれ故郷だけではなく、関係を持った地域も「心のふるさと」になり得る、まさに、第2のふるさとです。これまで塾に参加してきた方から届いた声の紹介もありました。



- ・あのおとき捕まえたクサガメは今でも生きています。現在、動物行政にかかわる仕事に就いています。
- ・当時の体験が、自分自身の関心や人生経験につながった。山の学校やスタッフの皆様に出会えたからこそその繋がりです。
- ・(現在中学3年生の方から) 登山部に入部しました。もしも7泊8日のキャンプに参加していなかったら別の部に入っていたでしょう。皆さんの優しさや楽しかった思い出が登山部へと導きました。
- ・虫が苦手だったが、命の大切さに気づき、命を守れる警察官を目指したいと思っている。などなど、心動かされた原体験は、少なからず自身の価値観に好影響を与えるものだと確信しました。これからもふるさと魅力を活かして、自然と人、人と人のつながりを高め、都市と農村の交流を促進する取り組みにより、このふるさとを100年後のこどもたちにもつないでいきたいと未来に向かっての力強い抱負が語られました。

また、「体験交流と中山間のこれからの地域づくりー共同研究:20周年アンケート調査結果から見えるものー」と題して、浦田さんの共同研究者である島根県中山間地域研究センター貫田さんから研究の概要の紹介がありました。「どのようななかかわり方でも地域を支えていること、中山間地域に思いや理解を持った人材を育成していることに重要な役割を果たしている」とのお話で、



この活動は、過疎化が進む日本各地において、モデルケースになり得るものと、今後の可能性への期待が膨らみました。来春、これらをまとめた記念誌が発行されるそうで、とても楽しみです。(本郷)

